音声記録（抜粋 3）の反訳

録音日：2023(R5)0619

反訳者：野村一也（請求人）

[野村]

セパレート予定図でしょう。多分。

「蘭越町が作成した図面ではないため」

これは、だから、どうはどうするんですか？あなた方からもらった文章です。これは。

[坂野]

はい。

[野村]

もう 1 回質問します。

[坂野]

はい。

[野村]

あなた、あたかも、蘭越町が取ったもの以外は、不存在が当たり前であるかのような言い方を、ここの中では、断定的に書いてるけれども。それに対して。

[坂野]

（不明）

[野村]

ここに書いてるのは、不存在の理由を、ただ単に「蘭越町が作成した図面ではないため」と、この文章だけを、読み取れば、蘭越町が作成したもの以外は・・・

[坂野]

この文章あってのこれですから。道の方で作成した文書を付けていただきましたよね。道から入手したのかと思ったんです。

その道が J R T と話した。内容について、コース図が付いてたっていうこと・・・

[野村]

さっき説明しましたよね。あなたがね・・・

[坂野]

今はわかりますけれども、開示請求いただいた時点では、道からの資料が付いてましたので、道とJRTのやり取りの中での文書なので、町は関知して・・・

[野村]

あのね、ちょっと僕も少し今日は少し声のトーンが高くなってるのは、あなた方が「出さない」「出さない」の一点張り。外部との連絡だって、当事者が雑談だと見なししたのは、一切残さない。信じられないよ、僕は、あなた方のやってることが。誰が雑談に来るんですか？町まで。

[坂野]

はい？

[野村]

誰が雑談しに、わざわざ、町長室まで行くんですか？

誰が、総務課長に会いに、町まで、雑談しに来るんですか？

どこの総務課長が、雑談のために時間を空けるんですか？

目的があるんですよ。「何々の件で、伺いたい」と。「何々の件でお話がある」と。「何の件で相談したいことがある」と。

その中には当然、雑談だってあるでしょう。少しは。でもね、主たる目的を持ってくるんですよ、ほとんどのケースにおいて。そんなこと言ってたら、「あなた方、雑談で仕事してんの？」ってことになっちゃいますよ。言わんとしてるのは、あなた方の文章の出し方が、あまりにも杜撰。

ないわけがないもの「ない」「ない」と言い張る。でね、それで嫌な思いしてるから、確認してるんです。ここであなたが書いてる意図を。この件に限らず、また同じようなことで、嫌な思いさせられたくないから。

当然、あなた方が、意思決定をしたものについては、公文書ですよ。その意思決定

の元となるものについては、部外者が撮影作成したものであっても、申請書、それに対して添えられているもの、それはあなた方、行政が意思決定するときの、材料にしたものだから、当然、意思決定の背景を追うために、あなた方は、保存しないといけないんですよ。外部が作成したものであっても、そうでしょうか？

[坂野]

その通りです。

[野村]

その通りでしょうか？なんでこんな書き方するんだよ。

[坂野]

いや、中にはあるでしょ？そのう、他の人が町以外の方が作ったもの。それについては町は関知してないので・・・

[野村]

ちょっと、あなた言ってるかよくわからないよ。意思決定をした背景に、その材料として・・・

[坂野]

今、聞いたので分かりますから。このときの話で・・・

[野村]

このときだってそうでしょう。このときだって、あなたは、意思決定をしたんですよ。意思決定を。JRTにリフトの掛け替えなしで、「いつか」「いつか」「そのうち」だけで、口約束だけで、契約書には何の約束事も入れないで、契約して、それを、北海道に繋いだ、という意思決定をしたんですよ。その、根拠となる文書が、なんで「蘭越町が作成した図面じゃないため不存在」なんだよ？

[坂野]

その点については今、野村さんから聞いたので確認します。

[野村]

何を確認するんだよ？

[坂野]

(鼻で笑う)

[野村]

分かんないよ、あなたの言ってることが。何を確認するのか。

[坂野]

この道からもらっ・・・道が作成した文書は、町の方から道に送ったもの、っていうことですよね？ J R Tに聞き取りして。

[野村]

もう1回言ってもらえます？

[坂野]

うん。さっきのこれです。

この文章は、町の方で道に送った、っていうことですよね？野村さん言っていましたよね？

[野村]

書いてあるでしょ？メモ書きで「森林管理課大島さんへ原本提出」と書いてあるでしょ？

[坂野]

J R Tじゃなくて、うちの方で出したってことですよね？

[野村]

あなた方からもらった文章ですよ。こんなの、あなた方しか書かないでしょ？こんなメモ書きを。J R Tがこんなメモ書きを持ってこないでしょう。

[坂野]

いや持ってくるかどうか・・・直接、私どもの・・・

[野村]

この文章自体が、この文章自体が J R T が書いたものじゃないのは明らかですよ。この文章自体が。この構成から、どっから見たって。少なくとも、北海道の森林室

か、あなた方、蘭越町のどっちかですよ。書いたのは。北海道は、北海道からもらった可能性は100%ない。僕は北海道に2回確認している。正式にね。これは、あなた方からもらったんですよ。

[坂野]

わかりました。

[野村]

その上で、あなたの言ってる、この説明をしてくれよ。

[坂野]

またさっきの話に戻るんですか・・・

[野村]

今後のためだって。また同じことをあなた方がやるから。「ない」と、「不存在」と、「いつか」「いつか」と。いっつもだよ。そんなのばっかだよ。あなた方のやってるのは。

おかしいでしょ？この説明は。不存在の理由は。一方的だし、書き直して。全部やり直し。

[坂野]

わかりました。

[野村]

やり直し、いつまで？

[坂野]

今週中に。

[野村]

今週中にね。お願いします。